

Deep Dialogue Group Discussion Vol.2 :

EVENT OUTLOOK

第2回TFMG Deep Dialogueを八重洲で開催

食産業のグローバル化をテーマに開催しているTokyo Food Meetup Global(TFMG)の第2回目が、2024年11月27日に東京ミッドタウン八重洲で開催されました。メンバーは第一回目に参加したメンバーに加えて、前回参加できなかったメンバー、そして新しく加わったメンバーも交えて、総勢27名程が集い17時30分から約3時間に渡り、これからの日本が目指していくべきグローバル化のアイデアの深掘りを行いました。冒頭の近況Updateを兼ねた自己紹介は、いかに参加している皆様の活動が、躍動感溢れるものであるかを象徴するように、非常に盛り上がりました。



懇親会で企業や業種の壁を超えた本音のトークを展開

3時間にも及ぶ濃密なワークショップの後は、東京ミッドタウン八重洲内のレストランで、食事を交えてさらなる本音トークで盛り上がりました。パソコンに向き合う議論も大事ですが、直接会いながら、それぞれのテーブルで、これから一緒にやっていきたいこと、そして仕掛けていきたい作戦会議が行われていたり、あるいは仕事以外の側面を知ったりと、同じ思いを持つ仲間が組織を超えて出来上がっていく感覚を得ることができました。ちょうど同日誕生日だったメンバーもあり、参加者全員でお祝いのお言葉を送りました^^



食産業グローバル化の方向性とは？

今回は2024年10月に開催されたSKS JAPAN2024での「日本の食産業が目指すべきGlobalization3.0への道」の議論を振り返るところから議論が始まりました。このセッションは、農林水産省の飯田 明子氏、味の素株式会社の小澤由行氏、外村仁氏、西村あさひ法律事務所の片桐秀樹が登壇されたものです。今回は前回洗い出したグローバル化のアプローチ議論で集まった30程のアイデアを振り返りつつ追加アイデアを抽出。そこから、ヒートマップ投票を行い参加メンバーが集中的に議論したい3つのテーマを集約しました。日本からグローバルに発信していくテーマにおいて、具体的には日本の食のアート化・ブランド化という方向で考えるグループ、和食が持つ知見を活用して世界に発信していくグループ、そして海外に群展開していくアプローチを考えるグループに分かれて議論しました



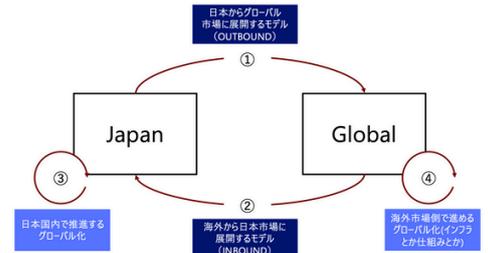
Deep Dialogue Group Discussion Vol.2

DEEP DIALOGUE-KEYWORDS

グローバル化のアプローチ

イノベーションやテクノロジーを起点としたグローバル化3.0を考える際に、4つのパターンが存在します。①日本からグローバル市場に展開するモデル（OUTBOUND）と、②海外から日本市場に展開するモデル（INBOUND）です。それに加えて、③日本に多くの観光客やビジネスパーソンが押し寄せる時代だからこその日本国内で仕掛けるグローバル化（グローバルカンファレンス、インバウンド向け体験設備、観光客を通じたグローバルマーケティング等）、そして④海外側で進めるグローバル化（単独個社では持ちづらい共同の製造工場、日本企業がプレゼンスを高めやすい新チャネル等）です。議論して見えてきたのは、各パターンが単独で存在するのではなく、連動して存在することで、初めて新たなグローバル化を実現できるということでした。

グローバル化の4つのパターン〜グローバル化はどこで起きるか



第2回のディスカッション内容〜集中議論するテーマを3つ選別

参加者で議論を重ねたのちに、投票を行い、3つの深掘りテーマを定め、3つのグループで、具体的に何を行うのか、誰がステークホルダー（利用者、顧客、支援者等）なのか、実現にあたっての課題・チャレンジ、実現に向けて巻き込むべきパートナーについて個々人がアイデアを出していきました。普段から、グローバル化について、それぞれの立場で考えているメンバーということもあり、かなり具体的かつ本質的なアイデアも飛び交い、一緒に取り組むべきテーマの輪郭が見えてきたディスカッションでした。今回からは、具体的なアクションに繋げていくために、あえて3つのテーマに絞りましたが、TFMG-DDの場に出てきてアイデアの広がりはかなりあり、日本の食産業のグローバル化に向けて取り組むべきテーマは多いということを実感できました

やるべきこと・できることは多い〜誰が行うかが鍵を握る

食産業のグローバル化。この言葉は多くのプレイヤーの共感を生みはじめています。日本人としても、日本の素晴らしいアセットである食がグローバル化することで、世界の食に関する課題解決に貢献できること、そして、何よりも世界の食を美味しく、健康に、さらにサステナブルにしていく一助となる可能性を感じています。さらに、グローバル化により、日本の食産業が稼ぐ力を取り戻し、農業から外食・小売りに至るまで、食産業が儲かる産業となり、多様な人財が集い、結果として我が国の食料自給の課題の解決にも貢献できる可能性が出てきます。こうした場で、産官学金、そしてスタートアップから企業のメンバーが集い議論する中で、見えてくるのは、「全員が必要・やって欲しい」というテーマの多さとその解像度の高さです。しかしながら、それを誰がリードできるのか、というところが最大のミッシングピースとなっているように感じました。今回とある参加者から出てきた言葉に「挑戦的な旗振り役がリードするべき」がありました。まさに今回出たアイデアをアイデアに留めず具体化するためにも、「誰がここで出てきたアイデアをリードしていくのか」ということを肝に留めて、第3回以降も本検討会を進めていきたいと思えます。次回の議論をお楽しみに！



田中宏隆(UnlocX CEO/SKS JAPAN主催者)

